大学間連携共同教育推進事業　事後評価結果

連携の種類	地域連携	整理番号	21
取組名称	地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト		
連携校 ※下線部は代表校	九州歯科大学、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学		

大学間連携共同教育推進事業評価委員会による評価

［総括評価］

Ｂ：概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

［コメント］

【教育プログラムの構築について】

本取組では、「ものづくりのまち」北九州地域を健康増進の視点の下に、就業高齢者を支援するための人材育成プログラムの構築が指向された。単位互換協定の締結など従来行われてこなかった大学間連携の取組が進んだことは評価できるが、その内容は、講演会、シンポジウムの実施に留まり、当初掲げていた地域就業高齢者の支援拠点化、若年者への技術・技能継承、多世代協同コミュニティの実現という目的までには距離がある。

中間評価以後は取組が加速したように思われるが、取組開始直後から設定された指標に基づいた取組がなされていれば、より改革が普及したのではないかと思われる。取組の始動の遅れが悔やまれる。また、こうした取組を各担当者任せにせず、これを機会に全学的な PBL やアクティブ・ラーニングを推進（FD）する取組につなげられれば更に良かったと思慮する。

【連携・実施体制の構築について】

代表校である九州歯科大学においては、北九州地区大学連携教育研究センター等に代表されるマネジメント体制が構築されている。学長を中心とした強固な体制は評価される。ステークホルダーである福岡県、北九州市及び北九州商工会議所との協働がなされている点も評価できる。外部評価も適切に実施されている。

【成果の活用と今後の展望について】

本取組の当初目的については、補助期間終了間際あるいは補助期間終了後に様々な取組が開始されており、今後の展開に期待がもてるものの、一部の大学においてはマネジメント体制並びに実働教職員の配置等が不明確な点も見られ、継続性にやや不安が残る。連携校としての妥当性や教職員の意識等も踏まえて、改めてどのような体制で事業を継続していくのかを議論していただきたい。